



会報

DISTRICT 253
CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA



きのこ

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30—13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 (2) 5775

会長 上野三郎
幹事 佐藤順治

全人類を 結びつけるために 奉仕せよ

SERVE TO UNITE MANKIND

W. ジャック・デービス

1977~78 国際ロータリー会長

第 934 号 1977. 11. 22 (火) (はれ) No.21

本日のプログラム

- | | | | |
|-------------------------|-----|----|------|
| 1. 点 | 鐘 | | |
| 2. ロータリーソング (我等の生業) | | | |
| 3. ビジター紹介 | | 会 | 長 |
| 4. 会長報告 | | | |
| 5. 幹事報告 | | | |
| 6. 地区大会交換学生受け入れ打合せ会報告 | 副会長 | 三井 | 健君 |
| 7. ネパール チャリティー、カレンダーの紹介 | | 三井 | 徹君 |
| 8. R.A.C 5周年記念式典について | | 吉野 | 勲君 |
| 9. 地区 I.C に関する懇談協議会の報告 | | 中江 | 亮君 |
| 10. 会員スピーチ 庄内と南洲について | | 菅 | 健君 |
| 11. スマイル | | 丹下 | 誠四郎君 |
| 12. 出席報告 | | 出席 | 委員会 |
| 13. 点 | 鐘 | | |

■ ビジター紹介

安達隆雄君(証券業) 一新潟東R.C

加藤広君(電気工事) 原田行雄君(遠洋漁業)

半田勇三郎君(生命保険) 佐藤 拓君(小児科医) } 鶴岡西R.C

■ 会長報告

去る11月15日 P.M4:00から2時間に亘り、第3回クラブ協議会が山王プラザにおいて約20名の会員が出席して開催され、これまでの活動状況の報告と今後の活動計画について種々話し合いが行われた。引きつづいて懇親会。

■ 幹事報告

1. 例会日時、場所の変更

(1) 酒田東R.C 来る24日(木)の当クラブ例会は天真学園高等学校インターアクトクラブ認証状伝達式の為、次のように変更

とき 11月23日(勤労感謝の日) A.M11:00

ところ 天真学園高等学校 酒田市浜田1-3-47

(2) 酒田R.C 来る11月30日(水)の当クラブ例会は天真学園高等学校インターアクトクラブ認証状伝達式の為、次のように変更

とき、ところ共上記酒田東R.Cと同じ

2. 会報到着

(1) 塩釜R.C (2) 酒田R.C (3) 石巻東R.C

3. 地区年次大会のご案内

(1) 第279地区 ホスト 千葉R.C

とき 昭和53年4月1日~2日 ところ 千葉県文化会館

登録料 会員 10,000円 ご家族 8,000円 仮申込期日 12月15日迄

(2) 第255地区 ホスト 足利R.C

とき 昭和53年4月8日~9日 ところ 足利市民会館

登録料 10,000円 仮申込期日 11月30日

(3) 第273地区 ホスト 鹿児島西R.C

とき 昭和53年4月22日~23日 ところ 県文化センター

登録料 6,000円 仮申込期日 12月30日

■ 地区大会、交換学生受け入れ打合せ会出席報告 副会長 三井 健君

味戸地区青少年交換委員長の下に開催された。出席は地区内10の受け入れR.Cから約2名づつであったが、当クラブからは私一人が出席した。要点を要約すれば、当R.Cには来年1月にMr. Brentok Hunt君が、278地区より来る予定になって居る。シドニー発1月14日、15日6時15分羽田着JAL 772便にて到着。猶オリエンテーションは一週間位後に行なう予定となっております。

ホストファミリーは約3ヶ月毎、4軒位が望ましいとなっておりますので、これについては会員諸君の一層の御協力をお願いしたいと思います。ホストファミリーは予め、前もって決めて置いてほしいとの要望もありました。

次に、クラブと受け入れ校にカウンセラーを決めて貰いたいとの事で、出来れば英語の出来る方が望ましいと云う事でしたが、これは新しく初めて受け入

れるクラブに対してのもので（実際はそうでもないかも知れないが）当クラブでは今迄と同じ様にやれば良いと思います。

次に外人登録をやってほしいと云う事です。これは厳重に保管して貰いたいとの事です。地区からの補助は10万円と決定したそうです。当クラブの交換学生に関する予算もその心算でお立て願います。

次に交換学生受け入れのモデル予算表に就いて御説明致します。総予算が57万円となりますが此の中にはホストファミリーへの謝礼は含まれて居りません。地区としては、今後ホストファミリーには全くの無料で奉仕して貰いたいと強い要望がありました。

次に帰国時にはクラブからの土産は最少限にして貰いたいとの事で、高価なものでは自分の小遣で買わせるようにとの事でした。

■ 会員スピーチ 庄内と南洲について

菅 健 君

菅実秀年表によると幕命により慶応3年12月11日、同行者6名にて上京す。とあります。これは当時幕府の実力者小栗上野介よりの命令で京都へ出張を命ぜられたものですが、その目的は同行者の重田新次郎の上京日記によると「討幕主謀者を誅殺すべき大任を帯び大阪へ（12月28日）到着せし、鳥羽伏見の戦にて幕軍大敗後と如何ともしがたく京都へ入れず使命を果さず空しく江戸へ帰りぬ。討幕主謀者とは西郷を指す」とあります。

慶応4年1月7日朝菅殿大阪城へ登城、榎本武揚殿へ対面す。余り人数不足に見れば不思議に思って問い合せしに、上様今日未明退城あればされしと申す。一同仰天せり。幕軍大敗の原因は（1）筒の向け処定まらず（2）軍令一切なし、政府軍の統制良し、これは京都市によほどすぐれた人物がいるからだ、よほどの人物がいる。薩摩邸打払い12月25日。

明治元年9月23日降敗歎願書を官軍参謀黒田清隆へ呈す。9月25日古口へ正使水野藤爾、副使山岸嘉右工門を遣わす。9月26日夜半致道館にて謝罪す、藩主当時16才、黒田28才、藩主敗将の屈辱を受けず。西郷、黒田共に来鶴、七日町神楽橋加茂屋文治へ宿る。黒田2度外出する。開城、銃器差し出す。黒田は荘内の再び叛逆することを恐れ藩主を他の大名に預ける事を主張した。又、山下房親という薩摩の隊長は藩主が降服しても家臣みな内心不平を抱いており、いつ爆発するかわからないから今すぐ鶴岡を去るのは得策でない^{たけあき}と主張したが、西郷は「武士が一旦降服した以上その後の事は考えぬものだ。もし再び叛逆したら引き返して討てばよい」といったという。黒田も山下もこの一言で鶴岡を去った、9月29日である。会津藩士南摩綱紀の復古記によれば「荘内藩士皆両刀を帯び、市内の店平日通り商売せり」とあります。

明治元年12月25日会津若松へ転封命令あり。これは大村益次郎の荘内藩解体論の強硬主張による。荘内の強さ、兵器の良さ、藩内統一の良さを恐れる。実秀明治2年1月4日上京す、とあります。これは忠^{あき}発公の直命により転封命令の阻止運動にてい身した。始めに黒田に面会して前年の寛大な処理を感謝した。黒田は「それは拙者のした事ではない、みな西郷先生の指示によった事だ」と言った。実秀は黒田の少しも自分を飾ろうとしない人となり感動した。又、黒田が満腔の誠意を傾けて西郷の指導に従う態度に心をひかれると同時に、これほど信頼を受けている西郷の測り知れない厚さと広さを改めて思い知った。（大山綱良）（川村純義）に会う。長州→苛酷、薩摩→寛大、務めて英雄の心

をとる。当時の様子を実秀行状記によると、新政府の人々皆朝敵とあざけり、賊といやしめ取合う者となし、と書いてあります。明治2年6月干へ変更。2年7月25日70万両献金命令。2年11月大村益次郎死亡。明治3年5月残金打ち切り、大隈重信と交渉する。

明治3年8月、犬塚勝弥、長沢顕郎、兩名藩主の親書をもって鹿児島へ。犬塚の手紙「西郷氏さだめし話の多い人であろうと思ったが、案に相違して要点だけをいう人であった。20日間一日おきにお会いしたが、暑い寒いの天気の影響など一度も聞かなかった。身なりは一切かまわず筒袖の襦袢に袴という簡素なもので天下に聞こえた人とは思われなく、一度び話を聞くとすべてのことの大要をよくつかんでいるので実に敬服した」西郷の話として「いまの政府はさびた鉄車同様で油を引いても動くものでない、鉄鎚で一旦打たねば動かない」

明治3年10月28日、忠篤公鹿児島へ、29名桐野、篠原、重田、野律、村田に師事する明治4年4月西郷上京、西郷45才、実秀42才。行状によると「一見して果たして此の人なり（京阪偵察のとき京都方に俊傑ありと感じた事）交情日々厚く実秀の翁を敬する兄の如く、翁の実秀を親しむ弟の如し」とあります。又、西郷は命もいらす名もいらす、官位も金もいらぬ人は始末に困るものだが、この始末に困る人でなくては国家の大業ならず、と言った。

実秀、明治4年9月東京を去る迄実秀は満々と湛えた水が一挙にほとぼしるように西郷に徹して問い、徹して求めました。西郷は自分から進んで人の師となり人に道を説く人ではなかったが、叩く事大きければ大きく返り、小さく叩けば小さく返る大鐘の様な人であった。この時の事が実秀の太く逞しい心の柱となり、南洲翁遺訓となった。西郷とよく会ったのは荘内藩御用商人深川の米問屋越後屋喜左工門宅である有名な「幾たびか辛酸を歴て志始めて堅し、光孫の為に美田を買わず」の詩を揮毫した。「西郷がもしこの詩とちがった事をしたら言行相反した男だと見限っていたきたい」といった。

明治7年11月 赤沢、三矢、鹿児島へ

8年2月 実秀他7名鹿児島へ出発、5月17日鹿児島着

6月10日 40枚揮毫、6月12日鹿児島発一7月4日鶴岡へ。

9月 戸田治作、池田悌三郎、黒谷謙治郎、鹿児島へ。

12月 伊藤吉太郎、伴、榊原鹿児島へ。

スマイル

鶴岡市学校保健会20周年記念式典で学校歯科保健への功勞により感謝状を受ける
 荘内日報へ写真掲載され 一 石黒慶之助君

出席報告

本 出 席 の 席	会 員 数	70名	欠 席 者	阿部(襄)君、玉城君、黒谷君、石倉君、小池君、嶺岸君、齋藤(栄)君、齋藤(得)君、板垣(広)君、笹原君、手塚君、富樫君、諸橋君、藪田君、佐藤(元)君
	出 席 数	55名		
	出 席 率	78.57%		

前 出 席 の 席	前回出席率	71.43%	メ ア ッ ク ブ	佐藤(忠)君一酒田R.C 笹原君一仙台R.C 五十嵐(三)君、玉城君、風間君、高橋(耕)君 小松君、佐藤(友)君、富樫君、金沢君 一鶴岡西R.C
	修正出席数	60名		
	確定出席率	85.71%		